

2025年度「教学と現代」(2026年3月25日)
『元の理』の学際的研究の可能性』を開催

3月25日、おやさと研究所では、天理大学創立100周年企画「元の理」公開教学講座シリーズ『元の理』の学際的研究とその新しい展開を求めて」の総集編として、2025年度特別講座「教学と現代」を開催した。これまでの1年間、全11回にわたって開催された公開教学講座シリーズでは、各研究員がさまざまな学問的角度から「元の理」の教えにスポットライトを当て、その救済の真理について究明してきた。今回の「教学と現代」は、これらの成果を踏まえて、独自の「元の理」研究を開拓された佐藤孝則元おやさと研究所員をお招きし、『元の理』の学際的研究の可能性』というテーマの下、シンポジウム形式で開催した。佐藤孝則氏は現在、大阪動植物海洋専門学校長・まほろば両生類研究所長を務めている。

最初に、佐藤氏より『元の理』の生物学的意義と進化論史的評価』と題した基調講演を頂いた。佐藤氏の講演は、①「元の理」の動物学的考察、②「元の理」の進化論的解釈、③「元の理」の進化論史的評価の3つの部分からなる。

①では、佐藤氏は「元初まりの話」に登場する水棲動物と「十全の守護」との関係性について、生物学的視点から考察した。この部分が「佐藤『元の理』学」の真骨頂というべきところだ。神名を授けられた水棲生物の生態的研究を踏まえ、18種類の「こふき」資料の分析を通じて、なぜそのような「守護の理」が説かれているかについて、佐藤氏は詳しく説明した。とくに、「うを」(男雛型)と「み」(女雛型)がそれぞれヤマトサンショウウオ、スナヤツメのことを指すと推定したのは、佐藤氏ならではの独創的な研究成果であると言える。

②では、佐藤氏は、「元初まりの話」の進化論的解釈について紹介した。生物が進化の過程で、浮力のある水中から大気への重圧に抗う形で陸上へと生活場所を移すのは、両生類の変態の姿である。佐藤氏は、これを、サンショウウオに「しやち」が「男一の道具、骨つぱりの道具」として仕込まれた姿に比定した。また、生物は世代交代を行うことで種を存続させるが、その役割は雌が担っている。カメは脊椎動物の中で唯一、脊椎と肋骨を一体化させる特殊な遺伝子を獲得し、この機能を実に2億2千万年間も受け継いできた。佐藤氏は、これを、ヤツメウナギに「かめ」が「女一の道具、皮つなぎの道具」として仕込まれた姿に比定した。

③では、佐藤氏は、明治初期に広まった国内の「ダーウィン進化論」と「元初まりの話」との関連について、「おふでさき」執筆時期との共時性を考察しながら、「元の理」を日本における進化論史の視点から論じた。ダーウィンの進化論を初めて日本で紹介したのは、明治10年に東京大学で特別講義を行ったエドワード・モースだったとされるが、実はすでに明治6年に来日したドイツ人の古生物学者のフランツ・ヒルゲンドルフであるという説が浮上してきた。一方、明治7年12月に教祖が執筆された「おふでさき」第6号には、「元初まりの話」に関わる進化論的側面の表現が見いだされる。それまで

聞いたこともなかった進化論の基本的な概念が、宗教的視点からとはいえ、すでに「おふでさき」に示されていることは極めて特筆すべきことだと述べて、佐藤氏は講演を結んだ。

次に、佐藤氏の基調講演を受けて、『元の理』の学際的研究の可能性』という総合テーマで、堀内みどり主任の司会の下、パネルディスカッションが行われた。パネリストとして、澤井治郎研究員が「こふきを拵えること—こふき話と『元の理』』という演題で、また中西光一研究員が「進化論と人種主義—『元の理』が示すもう一つの世界観』という演題で、それぞれの専門領域から天理教の教理の新たな解釈を目指して発表した。

澤井研究員は、天理教学の立場から、2代真柱の『こふきの研究』、また佐藤浩司氏や深谷忠政氏の研究成果を踏まえて、「こふき話」と「元の理」について考察。「元の理」は人間的な理解を絶した根本の理合いを表すものであるのに対して、これを目指して人間的な理解が可能で「こふき話」を作る営みが行われた。この「こふきを作る」という営みは、別席台本、『天理教教典』へと引き継がれてきた。澤井研究員は、これを踏まえて、現在もその営みは途上にあるのではないかと論じた。また中西研究員は、社会思想史研究の立場から、「元初まりの話」が説かれた頃、欧米列強では人種間の優劣を正当化する人種主義が浸透した時期でもあったことを指摘。だが、この人種主義は、進化論に対抗して人類多起源説に由来し、いわば偽科学的な内容のものであった。中西研究員は、科学思想史及び宗教思想史の双方から見て、「元初まりの話」が画期的な進化論的意義を示していると論じた。

その後、佐藤氏を交えてのディスカッションとなり、フロアを交えて活発な質疑応答や意見交換が行われた。最後に、井上昭洋所長がこれまでの公開教学講座シリーズを踏まえ、今回のシンポジウム全体についての総括コメントを述べた。

おやさと研究所では、この「教学と現代」の佐藤孝則氏の講演内容を含め、『元の理』の学際的研究とその新しい展開を求めて』と題した1年間にわたる公開教学講座の成果を、『伝道参考シリーズ46』の単行本として、3月26日付で刊行した。
(金子昭記)



佐藤孝則氏の講演